

刊夕日一廿月九



定価... 発行所... 印刷所...

可憐・犠牲の死

（愛谷堰の少年溺死を辯ず）

緒形 濱 治

茲で農民の爲めに犠牲になつた佐倉宗五郎の話が...

【朝】すまし汁... 【書】さしみ... 【晩】にしめ... 焼き豆腐

九月からは新しい教室で習はれるんだ、今は不景気だから村税には一文もかけないで学校を新らしくしたんだ...

【白】金は手に入り貰ひ物はあると云ふ大吉日なり、營業上進んで吉利を得る東西...

【白】金は手に入り貰ひ物はあると云ふ大吉日なり、營業上進んで吉利を得る東西...

【白】金は手に入り貰ひ物はあると云ふ大吉日なり、營業上進んで吉利を得る東西...

【白】金は手に入り貰ひ物はあると云ふ大吉日なり、營業上進んで吉利を得る東西...

【白】金は手に入り貰ひ物はあると云ふ大吉日なり、營業上進んで吉利を得る東西...

喜多流謠曲と仕舞の 白土會 平田町六九

秋の流行は三井ら 銘仙の各種 斯界の新柄 三三年型シヨール 毛スリン着尺の粹 三井呉服店

品質第一 平搾乳所 電話二六八番 平町・九品寺前

開店披露 阿部薬舗 平・田町（松月堂向）

玉屋洋品店 平町田町通電話六五六六

かまぼこ製造 水産物 平町一丁目 電話一四一番

旭硝子株式会社製品 板ガラス 硝子食器 松崎硝子製作所

中村齒科醫院 平町鍛冶町七

けふ解禁で

秋刀魚船勇躍

廿餘隻が漁場へ突進

既報愈々本廿一日を以つて漁獲解禁となつた、秋刀魚は去る十八日江名町加澤一造氏所有船が釜石附近漁場に出帆したのを皮切りに同町のみで出漁船二十餘隻に及んで居るので縣指導船警城丸は昨日朝監視の爲め宮城縣沖合に出帆した

平町も増收豫想

近年稀らしい豊作

平町に於ける本年出来秋の産米收獲豫想は作付反別九百八十三反より三千二百六十石の收獲を見る事間違なく昨年より高千七百五十石と比較すると千五百二十石と云ふ近年に無い増收である

スタンプ圖案を

酒井教諭が作製

久之濱驛に委嘱されて

警城高等女學校教諭酒井英吉氏は此程久之濱驛の依頼に依り直徑約一寸五分位の千鳥型スタンプ圖案を作製したが同スタンプは久之濱驛に於いて旅行趣味鼓吹の爲め一般の押捺の需めに應ずるもので圖案の濱千鳥の輪廓上部は谷地鑲泉、不動瀧、中部は波立薬師、辯天岩、下部は木奴美浦等を配し圖内には同地の主要な

年) 静物 鈴木弘 同

箱崎彰(四年) 若人 永山

利男 静物 宮川登(五年)

少年 鈴木武 炭礦

吉川三郎

分會長會議

武術大會打合

縣下各在郷軍人分會長會議は来る二十三日午後六時より平町住吉屋本店に於て開き翌二十四日警中に開催される縣下在郷軍人武術大會の打合せを行ふと

小名濱公益質屋

設置計劃具體化

石城郡小名濱町では豫てより公益質屋を設置する準備中であつたが左記八名の設立委員を任命し本廿一日午前九時より町役場内に於いて第一回の打合せ會を開いた

少年選手飛龍の技

磐炭主催で水に躍る

本郡小學校兒童水泳大會は本日午前九時半より磐炭主催の下に同鏡プールに於いて開催され内郷第三、入山湯本尋高、江名、小名濱の参加五校の兒童選手二百餘名が左記種目を競技した

干害水田を免租

小名濱町で調査中

植付不能約卅町歩

石城郡小名濱町役場では旱害地水田の免租を圖るべく目下調査中であるが大體植付不能反別は三十町歩位であると

山崎少將が來平

青訓を査閲して武術大會

成昨日放課後第一回の對抗試合を行つたが結果は左の如く一年の三組及び五組が勝ち来る二十七日は一年五組対四組、同勝者對三組の試合を行ひ次ぎ二年の試合に移ると

村長選舉

同點で二名

石城郡入遠野村では去る十八日村長改選の村會を開き鈴木富吉、榎田武美の兩氏が同點となつたので年長の鈴木氏が當選した

他地農村の視察に

江名や神谷の青年が出發

石城郡江名町青年團員十餘名は本廿一日郡山農試本場及び附近代表農村の視察に出發したが神谷産業青年團員四十名も來月上旬頃自轉車隊を組織して同方面の農事視察を行ふと

豚肉不足

卸値が騰る

石城地方に於ける豚肉は最近需要期を控へて居る折柄先年の豚コレラ騒ぎで屠殺處分に附した頭数が相當多いので供給不足を告ぐるに至り本春迄百斤當り七八錢があつた卸相場が現在十二三錢に昂騰して尙買入れが容易でなく一般への供給不十分なので茨城方面より移入して居ると

巖谷先生!

川崎小鳥

相馬焼きの珍品
◆ツイこの間上京し之際松坂屋に近い黒門前の書

屋で『金參園也』の正札付きの、先生の短冊を見た。今度葬儀で上京した序でに其家の前を通ると、正札は『金五圓也』と改められて居る。流石に東京の商人は機を見るに敏であると思つた

◆平町へは前後三回駕を寄せられた事であり、先生の揮毫を所持して居る人も随分多いが、就中管の澤開道記念碑の碑面に刻された千古不滅の碑文及び句碑は開鑿者の碩徳と共に、先生の一遺跡として、幾春秋の後迄も、萩の香りに包まれて異彩を放つ事であらう。

◆僕も一時は先生の色紙や短冊を可成り持つて居たが、知人に乞はるゝ儘、イツでも先生にお願ひすれば書いて貰へる積りで、氣前よく呉れて終つた爲め、今では自分の名入り以外には一枚もない、今更ら残念でならないが『明日ありと思ふ心の仇櫻……』如何とも取り返しのつかぬ始末になつて終つた。

◆而し先生の手紙や端書は山程ある、近く匡底を整理する積りで居るから、若し此際先生の達筆な芳墨を保存したい御希望の方があれば、差支へないもの、内幾通かを差上げて、先生を偲ぶよすがにもしたい。

◆ただ僕としては先生の殘されたもの、内、是れは珍品であると思つても、残りの品は、夫れは相馬焼の『一輪挿し』である、此の品だけは家寶として子孫に傳へたいと思つて居る。

土中の大金を

目當てに掘るわく

稻荷祠の前に黄金狂群る

大泥棒の奇怪な噂

石城郡好間村大字北好間字田代原居住農本田與治(五〇)さんは數年前田代原地内二百坪を赤井村の知人より譲受けたが同地内の隅に小さな稻荷の祠があつたので時々油揚等を上げて信心して居た處本月一日内郷村字高坂齊藤一さんが二名の男と共に同家を訪れ稻荷祠の位置等を詳しく尋ねるので如何なる譯かと段々事情を聞くと前記齊藤さんは秋田刑務所に目下入獄中の一囚人が東京大震災の際京橋の某藥種問屋より

現金七千五百圓を窃取して逃走の際田代原地内稻荷祠の五間程手前に其の大金を埋藏した旨何處からか聞き込んで来たとの事に本田さんは大乗氣となり態よく三名を歸らし後稻荷祠の附近を盛んに掘起し海底ならぬ土中の黄金を頻りに探して居る事が村内に傳はり我も々々と七千五百圓掘み取りの欲張り連が舞めき合ひ黄金狂時代を現出したが未だにビター文発見した者がなといふ

土藏破白白

平署の大捕物

既報去る十八日江名町を徘徊中平署員に獲擧された田村郡御館村字下枝生れ窃盜前科十四犯松本卯之吉(五六)の取調べを進めた處昨年五日高久村上山口農野口城太郎方の土藏破り犯人なる事を自白した昨年五月六日午後十時頃前記野口方土藏に一尺四方の穴を開けて忍込んだ處を家人に発見され一物も得ずに逃走し磐崎村字

人命救助

知事の表彰

石城郡豊間村の鈴木辰之助(三九)針生政義(三〇)大川清

紳士態の豪遊客

夜明け頃迄亂痴氣騒ぎ 實は無錢飲食の常習犯

他にも餘罪

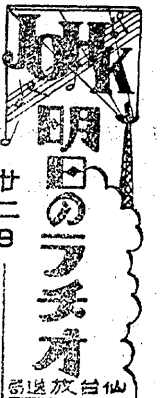
石城郡小名濱町字橋本三三料理店常磐亭車相澤キミ子方に昨廿日午後九時頃登樓した紳士體の男が藝者三名を呼んで本廿一日午前三時頃迄五十餘圓の遊興をなしイザ勘定となると一文無しと判り常磐亭ではカン

死んだ老人に

二百圓の遺産

原籍地に該當者なく 其處分に窮す

埼玉縣熊谷町大字石原町一七五行商人土族平出豊吉(六三)は去る三月六日午前八時頃双葉郡浪江町大字高瀬字西原三一木賃宿永井千代太郎方で病死し町役場から直ちに原籍役場に照會したが不明の爲め行路病人として假埋葬に附した處現在高百



今晩は北東の風 晴曇半し明日は南東の風雲

今晩の部

後六、〇〇(子供の時間) 管絃樂 日本放送交響樂團 指揮 山本直忠
後六、二五 英語講座(四) 岡田實慶
後七、三〇 講演「雲子の活躍」東北帝大教授理學博士 三枝彦雄
後八、〇〇 義太夫「菅原傳授手習鑑」(寺小屋の

明日の部

前六、三〇 基礎英語講座(六) 岡倉由三郎
前七、三〇 佛教講座「妙法蓮華經如來壽量品偈」清水谷恭順
前九、一〇 料理献立
前一〇、三〇 家庭メモ
前一〇、三五 家庭講座(第三日) 新義真言宗智山派總本山智積院より中繼導師管長 旭純榮 副導師事務局長 平澤照尊 職長 一山大衆
後一、一〇 野球試合實況

内郷消防

財産植林

石城郡内郷村消防組第六部では去る十九日小頭野木力氏外二十六名が出勤して御厩地内の山林に基本財産として五町歩の植林を行った

選挙違反不服公判

来る二十七日に開く

既報箕輪村々會議員選挙違反で處分されて略式罰金に不服として大嶺辯護士を代理人とし正式裁判を申立た村會議員小沼末藏氏外吉田臺一郎、高萩依宣、小沼延伴、小沼才太郎の諸氏等の公判は来る二十七日午前九時より平區裁判所に於て中島判事係り清田檢立事會、大嶺辯護士列席の下に開廷する

共同展期日

廿三四兩日に

平第二校海野、橋本、渡邊草野、松本五訓導の繪畫共同展覽會をマルトモホールに開く事は既記の如くであるが期日は来る二十三、二十四の兩日と決定した

平町人事

△三丁目二一當時東京市瀧川區田端町一八二七七井松王氏長女トヨ子

平職業紹介所報告

△仕出し見習 十五迄 尋卒 給料面談(平町某)
△商店員 十八才 尋卒 仕着外三圓(内郷村某)
△出前持 十六才 尋卒 仕着外三圓(平町某)
△菓子製造見習 二十以下 尋卒 給料面談(平町某)
△測量 四十八才 攻玉工業 給料面談(平町某)
△探炭夫 三十三才 尋卒 給料面談(山形縣某)
△事務員 三十四才 高卒 給料面談(茨城縣某)
△出前持 二十九才 尋四 給料面談(内郷村某)

銘剣秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第四十六回 血に飢ゆる村正

大手を振つて退散

武「貴様も血の廻りの悪い奴だ、殿様が閉門申付ると仰しやつた故謹んで居るが別に酒の事は仰しやらぬ故飲んでも大事ない、然し閉門屋敷の門を出入するもの如何故門の脇へ三尺ばかり空きを明けて當分夫から出入するが宜しい」

長「然んな事が出来ますものか」
武「出来ない事があるものか」

と主従で話をして居る所へ案内もなく庭口から這入つてお出になりましたのは家老の本多齋宮殿邊りを見渡し

齋「扱武助意外の出来事ではつたな」

武「是は恐れ入りました何時の間にも御出に相成りました」

齋「實は忍んで是非へ参つたのは餘の義ではない、殿には只々主水を討たれたるのをお憎しみ遊ばし今日は閉門なれど何時切腹の御沙汰があらうかも知れぬ故、只今より當家を退散いたせ、其の内機を以つて殿へ諒言をいたし御改心にさ、相成れば速やかに其方を石戻

して遣はす疾く支度を致して退散いたせ」
武「折角の思召ではござりますが臣の命は君にあると云ふ事は幼少より脳髓に染みて居りますれば殿様が切腹と仰しやるのを退散いたしては却つて恐れ入ります

る時は却つて死後の恥辱と心得ます、夫よりは潔く切腹を仕ります方が望みにござります」
齋「イヤ、死を急ぐは勇士でない豪傑は必ず死を急がぬものぞ何事も齋宮が含み置く早々退散をいたしたる宜しからう」
武「夫まで仰下し置かれる者を御詞を背くも如何御意に任せ只今より當地發足仕りませう」

武「如何にも直様出立仕ります、長助車を三輪ばかり雇つて参らんと荷に困るぞ」
齋「聞いて呉れるか」
武「左様が御家の爲にならざる悪人を切つた其方本多家の忠臣とも謂ふべきに却つて當家を退散申附るといふは時として是非に及ばぬ事、只此の上は殿様を御恨み申しては相成らんぞ」
武「中々殿を恨み奉るなどと申する事はござりませんと一刻も早く歸参を願ひまする心底でござります」
と話しの中に下僕の長助はミツチリ荷物を背負ひま

して
長「サア且那樣行きませう」
武「大層早く荷造りが出来たな」と家老の本多齋宮に別れを告げ五十兩の金子を懐中になし長助を共に連れて御門へ参ると、豫ねて本多齋宮殿より内命もあれば今に武助が御門へ参るであらうから其時には見て見ぬふりをして通してやれといふ事故態と下を向いて咎めずに居りました、兎角する内に武助は門番所へ参り武「御門番唯今より都築武助高茂當家を逃げますぞ、此段お断り申します」
と届けられた、門番こそ迷惑千番御通んなさいともいえず家老の齋宮殿よりは通してやれと云ふ御内命もあるし少々差俯向いて居りますと
武「ア、是れ程申しても御分りがないか内職の手が離されんと見える、御用済に相成るまで御待ち申さうナア長助」
長「ヘエ御門で一ぶくやつて行きませう」
と悠々とおみこしを据られたので門番三人は驚き門「どうか助けをと思つて早く逃げて下さい」
武「そんなに困るなら逃げやらう」と相變らず長助に荷物を擔がせ深川佐賀町の金兵衛といふ懇意な者の所へ参つて當分置いて呉れと頼みました、荒物屋の金兵衛も断る譯にも行かず據るなく武助主従を匿ましました。



るし第一十八萬石の御威勢で調べを受けますれば全國に足を留める事も出来ず申さばへんび貧村などへ落延び取押へられて引戻され其の上死刑でも仰せ附けま

齋「コレ、逃げる者が大八車などを雇つて来ては困る、其儘退散した方が宜しからう」
と仰の中、金子五十兩都築武助へ御渡しに相成りま

武「ア、是れ程申しても御分りがないか内職の手が離されんと見える、御用済に相成るまで御待ち申さうナア長助」
長「ヘエ御門で一ぶくやつて行きませう」
と悠々とおみこしを据られたので門番三人は驚き門「どうか助けをと思つて早く逃げて下さい」
武「そんなに困るなら逃げやらう」と相變らず長助に荷物を擔がせ深川佐賀町の金兵衛といふ懇意な者の所へ参つて當分置いて呉れと頼みました、荒物屋の金兵衛も断る譯にも行かず據るなく武助主従を匿ましました。

新 鮭節出賣



店理代平命生本日大最優最
榮 盛 賀 志
(三一電) 目丁四平



一本日質品
スーソ顔陽太

御存知ですか!

太陽顔ソースの

快味を!!!

是非御試下さい

平一丁目(電話二二三番)

小川屋本店
平各販賣店

外科

X光線科
性病科
外科科

意隨院入

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番